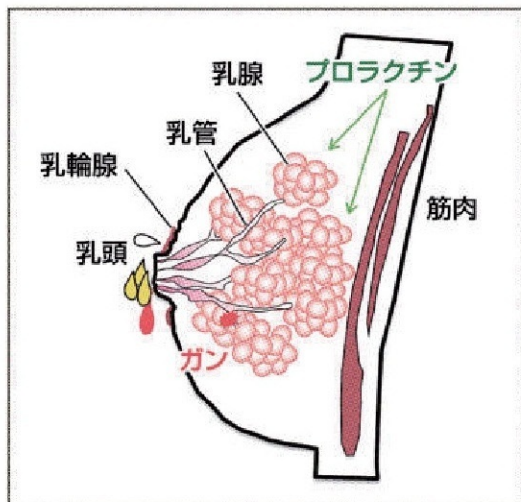




母乳は出産後の母親の乳房から分泌されます。しかし、妊娠中や授乳中ではないのに、乳頭から乳汁様、透明な粘液様や血液が混じったような分泌物が出る場合があります。乳房に関わるトラブルの10%は、この乳頭異常分泌です。乳頭を指でつまんだ時や下着に染みがつくことで気が付きま

す。出産後、頭の中の脳下垂体から乳汁を作るのに必要なプロラクチンという催乳ホルモンの分泌が高まります。このプロラクチンは母乳産生工場である乳腺に働き母乳を作り出す。母乳は乳管を通り、乳頭から流れ出ます。母乳が流れ出る乳管は片方の乳房で15〜20本あります。プロラクチンは左右の乳腺にまんべんなく働きますので、左右

乳頭からの異常分泌



血液混じると要注意



産婦人科医

今井篤志氏

のすべての乳管から乳汁が出ます。妊娠や出産に関係ない時にも、プロラクチンの分泌が高まる場合があります。例えば、精神安定剤(トラン

キライザー)や胃潰瘍の薬を服用している場合です。これらの薬剤は副作用でプロラクチン分泌を高め、左右の乳頭の多数の乳管から乳汁が出ます。授乳中に母乳の出が悪い場合には、この副作用を利用して胃潰瘍の薬を飲んでもらい、母乳の出を良くするくらい作用の強いものです。もちろん、服用を中止すれば止まります。また、脳下垂体に腫瘍

があり、プロラクチンの分泌が高まると、母乳様の分泌液が左右の乳頭から出ます。乳頭を指でつまむとピュッと出ることがあります。精密検査が必要です。血液が混じった分泌物の場合、乳がんの発見のきっかけとしてとても重要です。分泌物に血液が混じっても良性の病変によるものがほとんどですが、約5%に乳がんが見つかります。

乳がんが見つかることも

と(潜血反応)が大事です。潜血反応が陰性の場合にはがんである可能性が極めて低くなります。乳頭の周囲は乳輪といって粘液や皮脂を分泌する乳輪腺が分布しています。これは乳頭を保護するためです。この量が多いと、乳頭からの分泌と区別が付きにくくなります。乳管の中にはある程度の潤いがありますので、透明あるいは黄白色の分泌液が出る場合があります。量は少なく、いくつかの乳管から出ます。心配は要りません。しかし、陥没乳頭では乳管が詰まることであり、感染を起こすと、うみのような分泌があります。片方の乳頭から出ます。乳頭からの分泌物に気付いたら、片方の1カ所の乳管からか、片側の乳頭の複数の乳管からか、あるいは左右の乳頭からかを見極めることが重要です。専門医に相談することをお勧めします。(松波総合病院腫瘍内分泌センター長、羽島郡笠松町田代)